

FU-10

無停電電源装置
バッテリー盤(180分)
取扱説明書

株式会社 エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ

F U - 1 0 - 1 8 0 バッテリ盤

1 . 安全上のご注意

安全上のご注意については、無停電電源装置(F U - 1 0)の取扱説明書をご覧ください。

2 . 包装内容

U P S 本体以外の構成品は下記のとおりです。

構 成 品	記 事	数 量
バッテリー盤取扱説明書		1
バッテリー盤		1
バッテリー盤天井(吊りボルト)の穴うめボルト	M 1 2 用	4

3 . 概要

本装置は、無停電電源装置F U - 1 0 (以下U P S 本体と呼ぶ)のバッテリーバックアップ時間を1 8 0 分(周囲温度2 5 の時)にするためのバッテリー盤です。

4 . 据え付け

4.1 据え付け場所

(1) 据え付けにあたっては下記の場所は避けてください。

- 直射日光の当たるところ。
- 高温、高湿になるところ。
- 塵埃、腐食性ガスが多いところ。
- 振動や衝撃が加わるところ。

(2) 据え付け場所が密閉になる場合は、若干の換気をしてください。

(換気量は1 0 m³ / h以上を確保してください。)

4.2 据え付け

据え付けは外観構造図(4ページ)を参照してください。

(1) 設置場所の床に、あらかじめ床固定用の穴をあけてください。

バッテリー盤設置時の注意事項

2 1 固定穴：フリーアクセス床の場合に使用してください。

1 4 固定穴：一般床(コンクリート床等)の場合に使用してください。

(2) バッテリー盤を設置場所へ移動し、4箇所固定穴をアンカーボルトで固定してください。

(3) アースはD種接地とし、バッテリー盤の接地(G)端子(外観構造図：)に接続してください。

(4) バッテリー盤正面カバーを外し、盤内上部のバッテリーブレーカを「入」として下さい。「入」としたら、正面カバーを取り付けて下さい。バッテリーブレーカが「切」のままですと、停電時にバックアップできず負荷機器が停止します。

(5) バッテリーブレーカが「切」のままU P S 本体を運転した場合は、バッテリー盤正面上部のバッテリーブレーカ「切」表示(赤)が点灯して異常を知らせます。

5 . 電氣的仕様：バックアップ時間が長時間のため標準仕様と一部違いがあります。(備考欄 印)

項 目	規 格 又 は 特 性	備 考		
装 置	F U - 1 0 - 1 8 0			
出 力 容 量	1 k V A / 0 . 7 k W			
冷 却 方 式	強 制 空 冷			
交 流 入 力	相 数	単 相 2 線		
	電 圧	1 0 0 V ± 1 5 %		
	周 波 数	5 0 H z ま た は 6 0 H z ± 5 %	(注 1)	
	所 要 容 量	1 . 1 k V A	定 格 出 力 時	
	電 流 歪 率	1 0 % 以 下 (入 力 力 率 0 . 9 5 以 上)	定 格 出 力 時	
交 流 出 力	相 数	単 相 2 線		
	電 圧	1 0 0 V		
	電 圧 整 定 精 度	± 2 % 以 内		
	周 波 数	5 0 H z ま た は 6 0 H z	入 力 周 波 数 と 同 じ (自 動 選 択)	
	周 波 数 精 度	定 格 周 波 数 ± 1 . 0 % 以 内 (商 用 同 期 時)	自 走 発 振 時 ± 0 . 5 % 以 内	
	電 圧 波 形	正 弦 波		
	電 圧 波 形 歪 率	線 形 負 荷 時 : 3 % 以 下 1 0 0 % 整 流 器 負 荷 時 : 7 % 以 下	定 格 出 力 時	
	過 渡 電 圧 変 動	負 荷 急 変 時	± 5 % 以 内	0 ~ 1 0 0 % 変 化 又 は 出 力 切 換
		停 電 ・ 復 電 時		定 格 出 力 時
		入 力 電 圧 急 変 時		± 1 0 % 変 化
応 答 時 間	1 サ イ ク ル 以 下			
負 荷 力 率	0 . 7 (遅 れ)	変 動 範 囲 0 . 7 (遅 れ) ~ 1 . 0		
過 電 流 保 護 動 作	1 1 0 ~ 1 2 0 % 以 上 に て バ イ パ ス 回 路 へ 自 動 切 換	オ ー ト リ タ ー ン 機 能 付		
力	過 負 荷	イ ン バ ー タ	1 1 0 ~ 1 2 0 % 1 2 0 % 以 上	1 分 間 瞬 時
		耐 量	バ イ パ ス	2 0 0 %
	8 0 0 %			2 サ イ ク ル
バ ッ テ リ	方 式	小 形 シ ー ル 鉛 蓄 電 池		
	定 格 容 量	4 4 A · h	2 0 時 間 率	
	個 数	6 個 (1 2 V / 1 個)	6 直 列	
	バ ッ ク ア ッ プ 時 間	1 8 0 分	周 温 2 5 定 格 負 荷 時	
周 囲 条 件	周 囲 温 度 : 0 ~ 4 0 相 対 湿 度 : 3 0 ~ 9 0 %	(注 2)		
騒 音	4 0 d B 以 下	装 置 正 面 1 m A 特 性		

注 1 . 交 流 入 力 周 波 数 が、定 格 周 波 数 の ± 1 % の 範 囲 に あ り、か つ 交 流 入 力 電 圧 が 定 格 電 圧 ± 1 5 % の 範 囲 内 に あ る と き、イ ン バ ー タ は 交 流 入 力 と 同 期 運 転 し、無 瞬 断 切 り 換 え 可 能 と な り ま す。


注 2 . バ ッ テ リ を 搭 載 し て い る た め、3 0 を 超 え る 長 期 間 の 使 用 は 避 け て く だ さ い。

注 3 . バ ッ ク ア ッ プ 時 間 1 8 0 分 の U P S 本 体 は チ ャ ー ジ ャ ー (充 電 器) が 増 設 に な る た め、U P S 本 体 L C D 部 の 計 測 表 示 機 能 / 「 U P S ケ イ ブ ル 」 チ ャ ー ジ ャ ー の 充 電 電 流 (I c h g) 値 は 目 安 と な り ま す。

6 . バッテリー盤の保守・点検


6.1 バッテリーの点検

6ヶ月に一回程度、外観目視検査を実施してください。

 注意 故障のおそれ けがのおそれ	<ul style="list-style-type: none">• 専門業者以外は、内部の保守・点検をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。• 点検は、装置を完全に停止させ入力電源を断としてから行ってください。感電のおそれがあります。• バッテリーが接続されており、電気部品は充電されていますので、絶対に手を触れないでください。感電のおそれがあります。
--	---

バッテリーに変形・変色・腐食しているところはないか、チェックをしてください。特に、腐食性ガスや湿気の多い場所に設置されている場合はご注意ください。

6.2 バッテリーの交換


 注意	<ul style="list-style-type: none">• バッテリーは定期的に交換してください。交換時期を過ぎたバッテリーは、火災の原因になることがあります。
--	--

バッテリーは、周囲温度、放電回数など使用条件によって寿命が短縮されます。特に温度による影響は大きく、周囲温度によって表1のように短縮されます。(周囲温度とバッテリー寿命の目安は表1を参照してください。)


寿命を過ぎて使用しますと、液漏れが発生し最悪の場合は損傷のおそれがありますので、予防保全のためお早めに交換をお願いします。

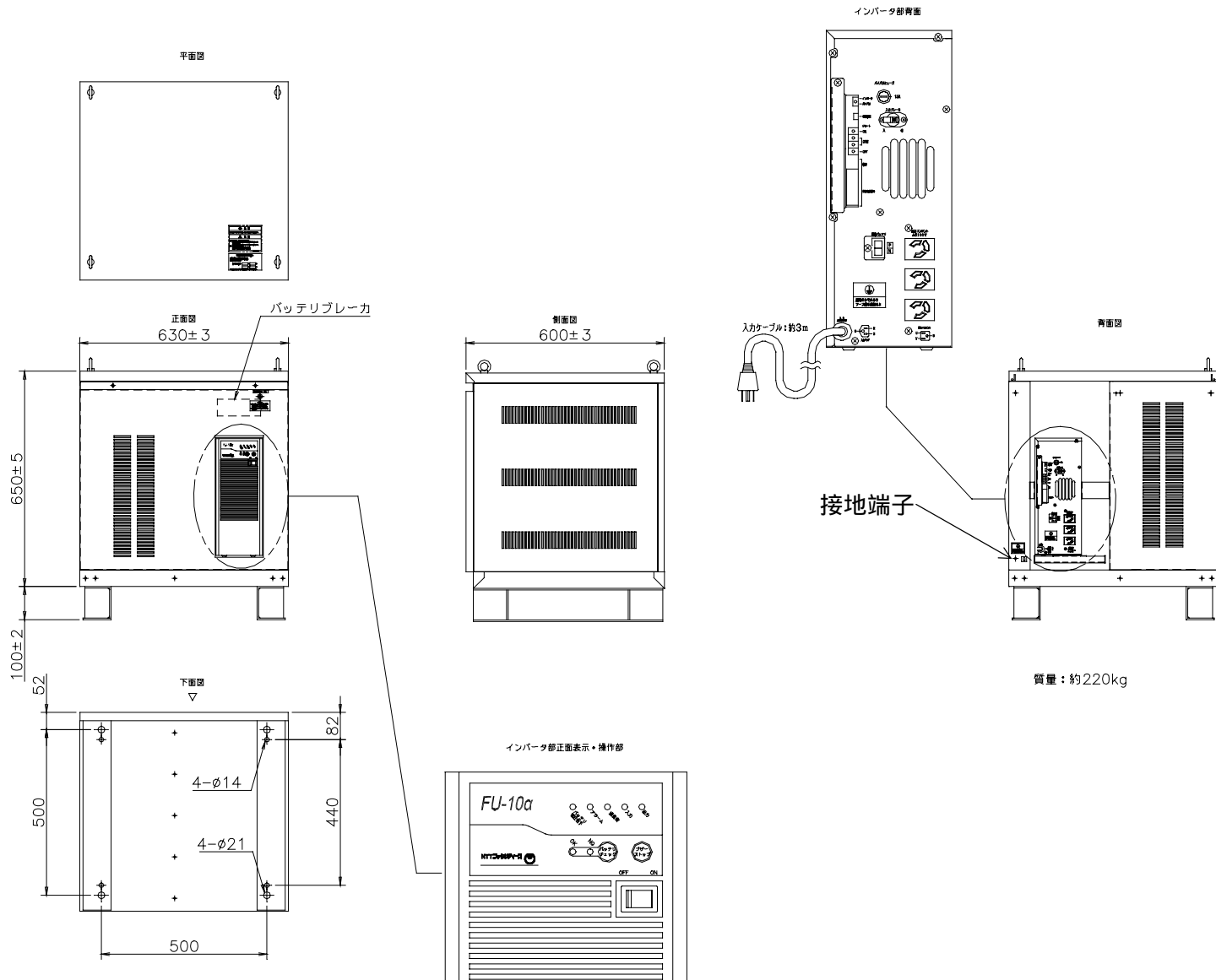
表1 . バッテリー寿命と交換周期

使用温度環境	期待寿命	バッテリー交換時期
25	5 年	4 . 5 年
30	3 . 5 年	3 年
35	2 . 5 年	2 年
40	1 . 7 年	1 . 5 年

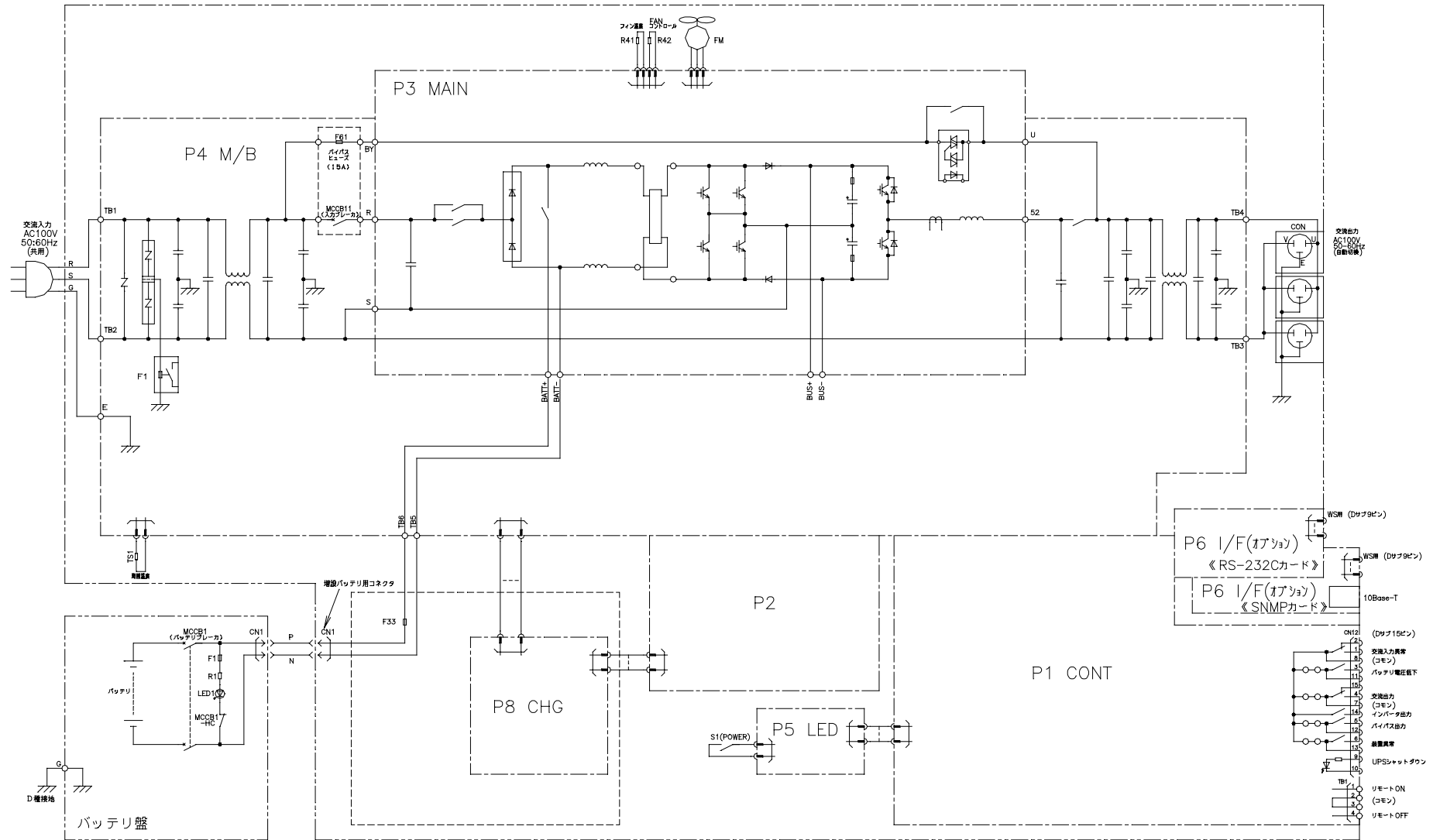
 注意	<ul style="list-style-type: none">• バッテリーは本装置専用品です。指定のバッテリー以外を使用しないでください。また、メーカー名・新旧異なるものを混ぜて使用しないでください。バッテリーの寿命低下、漏液、発熱の原因になることがあります。
--	--

6.3 バッテリーの廃棄

 注意	<ul style="list-style-type: none">• バッテリーは有害物質の鉛を含んでいますので、交換後の不要となったバッテリーの処理は産業廃棄物処理業者に委託するか、購入したバッテリーの箱を利用して購入先へ返送してください。
--	--



FU - 10 - 180
外観構造図



FU-10-180
電気回路図